

様式第3号（第7条関係）

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 「みと好文カレッジ運営審議会」
- 2 開催日時 平成29年7月26日（水） 14時00分から15時30分まで
- 3 開催場所 水戸市総合教育研究所 2階研究室7
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 櫻庭紀久子, 鬼澤真寿, 綿引 健, 平野弥生, 高橋教雄, 細谷五月
録田幸裕
 - (2) 執行機関 上田航也, 小川さつき, 成田行弘
 - (3) その他
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - ◎ 報告事項
 - (1) 平成29年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について（公開）
 - (2) 平成29年度みと好文カレッジ事業実施計画について（公開）
 - (3) 平成29年度市民センターにおける生涯学習活動の重点目標について（公開）
 - ◎ 協議事項
 - (1) さきがけ塾（後期）について（公開）
 - (2) その他（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 8 会議資料の名称
 - (1) 平成29年度第1回みと好文カレッジ運営審議会
 - (2) 平成28年度みと弘道館大学 市民センター等事業実績一覧（別冊）

9 発言の内容

委員長： それでは早速議題に入りたいと思います。まず、報告事項（1）平成29年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について、事務局よりお願いします。

執行機関： 報告事項（1）について、平成29年度第1回みと好文カレッジ運営審議会資料に基づき説明。

委員長： ただ今の御説明に質問やお尋ねがありましたら、どんなことでも結構ですのでお願いします。

____委員： 主要施策の説明ですが、今年度の新たな事業はありますか。

執行機関： 基本的に継続事業ですが、⑦の「あなたも師・達人制度」については、昨年度見直しを図り、今年度は拡大していきたいと思います。これ以外の事業については、今後検討して、講座を開発していきたいと考えております。

____委員： 各事業の進捗の確認は、参加された人数をもって、進捗としているわけですか。

執行機関： それぞれの事業におきまして、評価というかたちで、アンケートをとりまして、第2回のみと好文カレッジ運営審議会の中で報告させていただきたいと考えております。

____委員： 運営方針ですが、高度化する市民のニーズと運営する側の市民センター職員の力量を高めることを両輪でやっていかなければいけないと思いますが、市民センター単位で事業を行う場合に、統一的なものばかりでなく、地域の情報を活かしたのを見出し、ニーズを掘り起こしたものをと考えております。たとえば、住宅地と農村部ではニーズが変わってくると思います。水戸市として提供したいものを行うことは、公平性からも良いことだと思いますが、生涯学習というところで、先ほどの委員長の御挨拶にもありましたように、「幸福感を感じられる」ためには、地域事業を管理していかないと幸福感を感じることはならないと思いますので、今後の検討課題にさせていただきたいと思います。

執行機関： はい、わかりました。

委員長： 他に、御意見ございますか。なければ、次の報告事項（2）平成29年度みと好文カレッジ事業実施計画について、事務局よりお願いします。

執行機関： 報告事項（2）について、平成29年度第1回みと好文カレッジ運営審議会資料に基づき説明。

委員長： ありがとうございます。ただ今、報告事項（2）について、御説明いただきましたが、何か御意見、御質問などございましたらお願いいたします。私の方からよろしいでしょうか。資料5ページ、集合研修会ですが、着任1年目、2年目の所長を対象としているようですが、具体的には、どういった疑問が多いのでしょうか。

執行機関： 着任1年目の職員は、どうしても、わからないことがたくさんありますので、

1年目の方から疑問を出していただいて、経験のある2年目の所長の意見をいただくということで、やはり、定期講座（教室、クラブ）の運営の方法、移動学習のあり方など、今後、進めていく内容についての質問が非常に多かったように思います。

委員長： 8ページのシニアパソコン教室ですが、学校とのネットワークが重要だと思います。大変多くの方の応募があったようですが、水戸女子高校以外の学校にもあたるなどして、広げて行っていただきたいと思います。まさしく、シニアの時代、現代的課題であるIT、パソコンに馴染めない方もたくさんいるので、より多くの市民が参加できる状況をつくっていただきたいと思うのですがいかがでしょうか。

執行機関： ゼロからはじめるシニアパソコン教室は、3年前だったでしょうか、さきがけ塾の塾生企画講座の中から生まれたもので、水戸女子高校の協力を得て実施したものです。今後も、さきがけ塾の塾生が開発したものを小学校、中学校、高校、大学と連携した事業としていけるよう検討していきたいと考えております。

___委員： 今の話と関連しますが、定員20名ということですが、パソコンの台数の制限はありますか。何人の方の応募があったのでしょうか。抽選に漏れた方に対する方法は何かないのでしょうか。たとえば、抽選に漏れた方が2、3人であれば、次回に最優先で受講していただくこともできるでしょうか・・・。

執行機関： 昨年度は、定員の倍近い方の申込がありましたので、そういったことも考慮しまして、落選された方につきましては、今年度も応募していただきたいと考えております。今後も、毎年こうした形で水戸女子高校と連携して、パソコン講座のコースを増やしていければと考えております。実は、昨年度は、2コース4日間で実施しましたが、今年度は、水戸女子高校の商業科の先生がお忙しいということもありまして、1コース2日間の実施となりました。次年度につきましては、さらに多くの方に受講していただけるよう検討してまいりたいと考えております。

___委員： 学校側への謝礼はどうしているのでしょうか。

執行機関： 先生方へは、報償金を差し上げておりまして、商業科の6名の学生さんには、御礼として、1日の講習会ですので、お昼のお弁当を差し上げております。

___委員： 先生方への報償金や昼食代など、予算の問題もあるので、回数を増やしたりすることはそれほど簡単なことではないと思うのですが・・・。
また、学校を使う時期の問題もあると思います。

執行機関： やはり、夏休み期間中だからこそ、できる講座なのかなと思います。今後は、春休み期間なども利用できれば、多くの方に受講いただけるように思います。

___委員： 水戸女子高校以外の高等学校や大学などへの打診はされているのでしょうか。

執行機関： 今までのところ、大学への声掛けは行っておりませんので、今後の課題として考えてまいりたいと思います。

____委員： 事業自体が仕分けされていて、職員に対する研修、サポーターのための研修、各市民センターのスタッフへの研修と十分になされていると思いますが、先程、委員さんからもお話があったとおり、それぞれの地区によって、必要とする講座、興味を持たせる講座が本来あるべきかなと思います。実際に、それぞれの市民センターを中心とした考え方で、地域性とか住民性とか、こういった観点から新規事業が工夫されて展開されているのか、その辺はいかがでしょうか。

執行機関： 今年度については、今後の説明を予定しておりましたが、茨城県の「家庭教育を支援するための条例」が昨年12月に施行されました。家庭教育の強化事業というもので、各市民センターにおける家庭教育の強化事業のための事業費が予算づけられたところがございます。今のところ、計画中という市民センターがほとんどですが、やはり、子どもを持つ家庭は、たとえば、山根地区ですとか国田地区、飯富地区に対して、三の丸地区ですとか緑岡地区、こうしたところの人口の違いや地域性がございまして、実施にあたっては、市民センターの方でも、二重に悩むところであると聞いています。これから家庭教育の支援という形で実施していくにあたりまして、こちらでもそうしたことを踏まえまして、今後、検討していきたいと考えております。

____委員： 私の地元は、飯富地区で、現在、緑岡地区に勤務していますが、人口的には雲泥の差があります。____委員さんからもありましたように、その地区ならではのものというものは、多分少ないはずですが、大切なのは少ない材料であってもやろうとするのかしないのか、新たな講座、研修、体験活動をやろうとするのか、それとも、昨年同様で済ませてしまうのかでは、相当違ってくるので、好文カレッジでイニシアチブをとっていただいて、地域に適した新規事業を展開してみませんかということで、所長さん、職員さんに対してリーダーシップを発揮していただけるとよろしいかと思っております。

先程、____委員さんからお話がありましたパソコン教室に関してですが、いつも水戸女子高校さんに頼るといっても、なかなか難しいと思います。パソコンがまとまってあるのは、学校ということになると思うのですが、市内の高校さん、水戸女子高校さんのとなりの商業科がある水戸商業高校さんも考えられるでしょう。また、たとえば、公立中学校さんもパソコンを備えています。夏休み中は稼働していませんし、そこには技術関係の職員もいるので、指導者になり得るでしょうし、間口を広げていく、受け入れていただけるかどうかは別にして、パソコン講習を希望された方は、どこかで受講できる保障的なものがあるとどんどん活気を帯びていくことになるのではないのでしょうか。そのためには、学校さんとか公共機関の理解を得ないと難しいとは思いますが、実際

に働き掛けをしてみて、駄目なら駄目で仕方がないので、働き掛けを行うこと自体が大事なので、積極的な働き掛けをしていただいてもよろしいのかなと思います。

執行機関： はい、わかりました。

委員長：他に御意見はいかがでしょうか。

___委員：生涯学習サポーター37名ということですが、お差支えがなければ、年齢構成や性別について教えていただきたいと思います。

執行機関：私どもとしては、若い方の登録を希望しているところなのですが、60代、70代の方がほとんどです。今日御出席の___委員さんにもサポーター登録していただいております。今後は、さきがけ塾の中から若い方を受け入れられればと考えております。男女比については、女性の方が8割、男性の方が2割程を占めております。

___委員：今日は、商工会議所の専務さんもいらっしゃっていますし、若い世代の方々との交流をつくってお願いしていくことも良いかと思えます。

先程お話がありました、地域の独自性を出す事業ですが、さきがけ塾で考えていくのも手なのかな、と思えます。何でもかんでも好文カレッジでやっていると、人材も限られるので、さきがけ塾を受講する方は意識も高い方ですし、三十何人集まれば、企画を考え易いのではないのでしょうか。御指導はいただくにしても、こうした方々にお願いして企画をあげてもら。成功すればそれで良いし、失敗すれば検討するといったサイクルを作っていくことを考えても良いのではないのでしょうか。

執行機関：はい、わかりました。ありがとうございます。

___委員：「ほっとひといき夢らんど」の申し込みはどのような状況ですか。抽選になっているのでしょうか。

執行機関：人気で需要が高く、毎回、倍近い応募がございます。

___委員：Aコース、Bコース、どちらの応募が多いのでしょうか。

執行機関：どちらかというとならBコース、2歳6ヶ月から4歳までの未就学児、幼稚園に入る前の方のお母さま方に興味を持っていただいているようです。

___委員：落ちた方のフォローは何か行っているのでしょうか。

執行機関：落選された方には、好文カレッジで企画します、お子様向けの講座や家庭教育支援事業、親業訓練講座などの周知を図られるよう案内を行っております。

___委員：さきがけ塾ですが、昨年、イメージがわからない、周知を図るといった話が合ったように思いますし、他の事業に関しても皆さんでアイデアを出し合ったように思います。反映された部分はあるのでしょうか。

執行機関：さきがけ塾については、2年継続の講座となっております。昨年、委員さんの方から、「わかりづらい、先が見えない」といったような御指摘をいただいたと

思います。今日の協議事項の中で、さきがけ塾第4期生2年次の内容、また、今後のさきがけ塾の内容等について、皆様に御協議いただきたいと考えております。また、来年の9月には第4期が終了しまして、第5期生の募集にあたりまして、内容を検討したうえで、募集を行っていきたいと考えております。

委員長：ほか、ございませんでしょうか。なければ、事務局より、報告事項(3)の「平成29年度市民センターにおける生涯学習活動の重点目標について」御説明をお願いいたします。

執行機関：報告事項(3)について、平成29年度第1回みと好文カレッジ運営審議会資料に基づき説明。

委員長：ありがとうございます。ただ今の御報告につきまして、御質問、御意見をお願いいたします。

___委員：市民のニーズという、個人的なニーズに近いものになるのではないのでしょうか。社会のニーズといった場合は、漠然としたものになってしまうように思いますが、具体的に把握していく方法についてはどうお考えでしょうか。

執行機関：個人のニーズについては、個人が個人的に興味、関心があるもの、趣味を含むお稽古ごとなどを個人の要望ととらえておまして、市民センターにおいては、定期講座、教室・クラブにおいて、興味、関心を示す講座と考えております。社会のニーズとなりますと、社会の要望、個人的なものではなくて、社会生活の中で問題、課題とされてくるような現代的課題と呼ばれるものであると理解しております。市民のニーズを私どもが理解することは、なかなか難しいとは感じておりますが、各事業の中で行うアンケートによって、どういったものに興味を示しているのか、どういった講座の受講が求められているのかを把握していきたいと考えております。

___委員：個人的ニーズ(興味、関心)については、各市民センター等で随時アンケート調査をする等の方法で確認していくことができるものと思いますが、社会的ニーズ、すなわち社会生活の中で問題、課題とされる現代的課題ということになると、場合によっては、市の方から問題提起をし、市民に問いかけるという方法も必要になるのではないかと思います。

___委員：市民のニーズは、アンケートで把握していくということですね。

執行機関：アンケートだけでは、おそらく把握が難しいのではないかと考えていますので、市民センターで開催する、現代的課題を解決するための事業の中で、各地域におけるニーズについて御意見をいただいきたいと考えております。

___委員：市民センターにも委員会がありましたよね。

執行機関：はい、各市民センターごとに運営審議会が設置されております。

___委員：教室とか講座とかに参加した方の御意見を吸い上げるシステムを作っておかないと、なかなか課題の把握はできないのではないのでしょうか。一つ一つの講

座、研修の時には、必ず、簡単で良いのでアンケート用紙を用意しておく。あるいは、各市民センターの運営審議会等で集まった「地域の声」を残して収録しておく。こうした機会を作っておかないと、一人一人の声が上がるシステムは作れないのではないかと思います。各市民センターには、「事業の後にはアンケートを行ってください。」ということをお文カレッジからお願いしておいてもよいのではないのでしょうか。喫緊の課題については、___委員さんからあったように、上から落とすということも考えられると思います。

委員長： 他にございますでしょうか。

___委員： 感想だと思って聞いていただきたいのですが、報告事項（１）（２）は良いと思うのですが（３）に関しては、重点目標と言いながら、すべての文章が「・・・に努める」で終わっており、内容も全国どこでも通用してしまうような内容であるため、皆さんもぼやけた印象を受けたと思うのです。やはり具体性のある内容を入れておかないと、言いつ放しで終わってしまうように思います。

執行機関： 市民センターおける重点目標につきましては、皆さんにこの場でお諮りしましたものを各市民センターに示しまして、各市民センターごとの運営審議会の中で、各地域ごとに諮られましたものが各市民センターの重点目標として掲げられております。そうした中で、私どもも今後検討してまいりたいと思います。

委員長： 水戸市らしいものにしていく必要があると思います。

ここで、次の協議事項（１）さきがけ塾（後期）について、に移ってよろしいでしょうか。事務局より御説明をお願いいたします。

執行機関： 協議事項（１）について、平成29年度第1回みと好文カレッジ運営審議会資料に基づき説明。

委員長： 今、さきがけ塾の後期日程等について、御説明がありましたが、さきがけ塾のあり方も含めまして、御意見をうかがいたいと思いますが。

___委員： さきがけ塾は、いくつかのグループに分かれてプログラムを考えるという形で運営されていると思いましたが、現在も同じように運営されているのですか。

執行機関： はい。続いております。

___委員： さきがけ塾で考えられたプログラムの内容についてですが、このままでは、市民に対する講座としては、まだまだ未熟かなと思われることは事実だと思います。しかし、折角のこのカリキュラムを活かすためには、残念ながらさきがけ塾におけるプレゼンテーションで多くの支持を得られなかったプログラムに関する情報を流すことがあってもよいと思います。また、現在、講座は2年間にわたって行われておりますが、受講者の中には若い方もいらして、場合によっては、受講途中で卒業して東京等に行ってしまうということも大いにありうると思います。せっかく学んできたことを、途中で止めてしまう、諦めてしまうのではなく、何らかの方法で継続すること、活かすことは考えられないでし

ようか。

委員長 : 2年間学んだ集大成として、市民を対象とした、さきがけ塾生の発表会のような機会があれば良いと思います。

執行機関 : 毎年、さきがけ塾の塾生は、市民大学等の活動をしている先進地に視察に行っています。昨年度は、八潮市の市民大学にお邪魔しました。この市民大学も2年間の講座で、1年目は大学の教授や八潮市の職員を講師に講座を行っておりまして、2年目については、各グループに分かれまして、学習したものを取り入れ、グループごとにテーマを決めて1年間調査・研究し、成果を公開講座として発表するという内容でした。さきがけ塾についても、そういった形で2年間学ぶことも必要だとは思いますが、さきがけ塾生たちが1年間で学んだ成果を市民の皆様へ発表できるような場の検討の余地があるのではないかと考えております。

委員長 : 是非、検討していただきたいと思っております。私が所属しているNPO消費生活相談室では、「消費者大学、大学院」で学んだことの集大成として、市民を対象に発表会の形で卒業式を行いました。発表会にあたって、運営班、啓発班、シンポジウム班にグループ分けし、計画から実行まですべて自分たちで行いました。当日は、市民の参加は少なかったのですが、すべて自分たちで行ったことが、活動の自信につながり、地域に戻って課題に向き合っていこうという意思が感じられました。さきがけ塾の塾生も成果を市民向けに発表する場を設けてはいかがでしょうか。塾生が自分の考えを市民に対して発表することは、大きな自信につながり、活動の力になることと思います。そして、塾生が自ら課題に向き合い、課題解決のために活動できる地域のリーダーになっていただきたいと思っております。早急に結果を求めるのではなく、長い目でみて、改善しながらやっていただければと思っております。私は、さきがけ塾に対して非常に期待しております。

___委員 : 学んだ後に何をすればよいのか。それはあなたが自分で考えなさい、というものもあるだろうけれども、それなりの受け皿をきちんと用意しておいて、たとえば、プレゼンしたら、いろんな人に見ていただいて、開催することが決まっている、あるいは、どこどこの市民センターを中心に新しい講座を開催することになっています、といったことがあると、きっと、みんな実際に企画ができるのだということで、塾生として修了した新たなプランナーとして、それぞれ楽しみが見いだせるのかな、と思いますので、そういう部分をどんどん塾生たちに与えていく、オープン化と実践化によって先が変わってくるのではないかと思います。実際に塾生が研修で作った講座をどこかで講座として実施したことはあるのですか。

執行機関 : さきがけ塾生が、1年次に学んだ成果の発表の場として、プログラム研修会

を行っておりまして、自分たちで作ったプログラムを自分たちで募集を図って市民センター等において開催しております。

___委員： それは、毎年行っているのですか。

執行機関： はい、毎年行っております。好評なものは、第2弾、3弾と続くものもあります。

___委員： そのようなことがどんどん増えてくると、自分たちもやってみよう、ということで、水戸市としても財産になるのではないのでしょうか。

___委員： 塾生ですが、60代、70代の方を集めようとしているのでしょうか、もっと若い方も対象としているのでしょうか。

執行機関： もっと若い方にも来ていただきたいと考えております。

___委員： もっと遅い時間に開催できないのでしょうか。

執行機関： 検討したいと思っております。

___委員： 若い人はすごい力をもっていますから、できれば夜とか、勉強や仕事に差し障りのない時間帯にもってこられると、参加者はもっと増えると思います。

___委員： 日立市では「日立市を活性化する企画を自分たちで作ってみませんか」と大学生に呼びかけています。学生はなかなか関心を示さないのですが、水戸市内の大学生に同様の呼びかけをしてみたいかでしょうか。

執行機関： 水戸市内には茨城大学、常磐大学、短期大学等もありますので、若い方の取り込み方について、講座の内容や時間帯等を含め考えていきたいと思えます。さきがけ塾の強味として、こうした方々、高校生も含めて周知を図ってきたいと考えております。

___委員： 子育ての当事者ではない人が「子育て講座」を企画することは、当事者の意見が反映されなかったり、話をしても伝わらないように思います。当事者が入れるような設定があってもよいように思います。

執行機関： はい。検討させていただきます。

___委員： 基本的に、生涯学習サポーターに何をやらせたいのでしょうか。その人は、年間これだけ学んだ人でないとなれないのでしょうか。私たちは、商工会議所青年部に所属しておりまして、とくに資格もなく、勉強もしていませんが、水戸市のために、いろいろ事業を考えて実施しています。さきがけ塾は、その入口のハードルが高過ぎて、間口が狭く感じています。そうではなくて、間口を広げてから入ってきてもらい、勉強してもらおうという形はとれないのでしょうか。それだけ習得した人でないとなれない理由があるのなら仕方ないと思えますけれども、若い人たちの中で、これだけのことを勉強して、水戸市のために役に立とうという人が出てくるとは思えません。先程から、「若い人」とおっしゃっておられますが、私は、これを見てもやりたいとは思いません。でも、講座の中には、「これだったら受けてみたい」という講座はあります。一般開放

とかで、講座を受けられるようにして、どんどんハードルを下げていく必要があるのではないかと思います。募集方法とかは、昨年から変化とかはあったのでしょうか。___委員さんからもあったように、サポーターを習得した人しかその企画を考えられない、これでは、本当に市民の声を取り入れられるということになるのでしょうか。もっといろんな人、対象の人に考えてもらうことがあってもよいと思います。

委員長： 私は、さきがけ塾の間口が狭まっているとは思いませんが、時間とか夜とか、そうしたことに課題があるのかなと思います。

執行機関： はい、さきがけ塾に関して、狭めているということはありません。

委員長： 私は、さきがけ塾は、40代、50代、幅広い年代の方に携わっていただきたいと思うのです。なかなか現実問題として、子育てのお母さんたちは精一杯、働く人は働くこと、今の社会は、ゆとりのない社会なのかなと思います。そんな中、ゆとりのある世代の方が地域のためにやってみようか、というのが時代を反映しているのかなと思います。そうだとしたら、多くの世代に参加していただくために、何が課題なのか、内容なのか時間なのか、日数なのか検討する必要があるように思います。講座の内容はさきがけ塾の塾生が決めているのですか。

執行機関： 学習内容は、好文カレッジで決めております。

委員長： その辺のところ、課題を見つけながら、いろいろな世代の方に参加してもらえるようにしていったらどうなのかなと思います。

___委員： さきがけ塾は、2年間の継続事業ということで、二の足を踏む人もいるように思います。すべて参加しなくてはならないという印象を与えてしまうと、「もしかしたらこの時期は無理かもしれない」と考えて諦めてしまう人も多いのではないかと思います。こうした点で、何か工夫ができないのでしょうか。

___委員： さきがけ塾は、2年間で40講座これを受講しなければ、サポーターとして認定されないとなると厳しい条件となります。その中の講座を選択して受講するといった、「多少とも柔軟性を持たせては」という部分と「きちんと受講して、さきがけ塾としての資質を」という立ち上げた時の思いがあるのではないかと思います。40講座受けた以上は、どこか力を出せる場所を作っておく必要がありますよね。受けました、サポーターになりました、声が掛かりません・・・では受けないですよね。力を出せる場所、例えば、1年に1回商工会議所さんの事業の企画ができますとか、そういった場所があればよいと思います。目標や場面が必ずあるなら受講者の気持ちも違ってくると思うのですが、確約できないなら、選択制で40講座のうち、例えば、20講座受講すればサポーターとして認定します」といったことの方がよいように思います。とはいえ、さきがけ塾の当初の意図と相反することになるのかもしれないので、その辺のところは

検討が必要だと思います。

執行機関： ありがとうございます。

委員長： それでは、その他ですが、事務局からいかがですか。

執行機関： とくにございません。

委員長： それでは、委員の皆さまからいかがでしょうか。

___委員： ちょっとよろしいでしょうか。今日のお話の中でも「ほっとひといき夢らんど」の話がありましたが、こういった事業は各市民センターでも行われているようですが・・。

執行機関： はい、くじららんどや、福祉部門でも開催しております。

___委員： セクションはいろいろかもしれませんが、こうした子育て支援の事業が市民センターで行われていると思います。私が勤務する学区は、4,000世帯あるのですが、その中で「存在感なくして存在している」御家庭の方がたくさんいらっしゃいます。住民の会、いわゆる自治会ですが、子ども会、育成会に入らない、学校さんによっては、子ども会、育成会自体がなくなってしまった所もあって、非常に子ども同士、親同志のつながりが希薄になってしまっています。それは、小さい子どもを持つお母さんにしても同じで、話す相手がいないというお母さんがたくさんいて、核家族化ということで、相談する人が周りにいない、そうすると、市民センターで子育ての何かコミュニケーションの場をつくってくると、結構、参加してくれる人も多いので、そういう意味で、好文カレッジさんを中心にして、人と人を繋ぐようないろいろな講座を是非開催していただきたいと思います。そうしたことをしていかないと、地区の関係を含めたコミュニティが崩壊しつつあります。わずかに、学校という単位で、小学校とか中学校とかは、子どもと家庭を抱えているので、その中では交流が持てるのですが、地域に戻った時に交流が持てないといった現状があるものですから、市民センターとかを活用していただくためにも、カレッジでいろんな施策をとって、呼び込むような活動をしていただくと、地域が変わっていくと思いますので、その辺りも頭の隅に入れて企画を考えていただければと思います。

委員長： 学校支援の事業が広がっていますが、学校支援そのものでなくても、市民センターが提供とか考えられないでしょうか。

執行機関： 場所の提供ということでしょうか。時間帯とか、どなたが主体になるのかといった課題があるように思います。

委員長： 他、ございませんか。なければ、本日はこれで終了させていただきます。

以下余白